



幸手小だより

幸手市立幸手小学校 令和7年度12月号



児童数261名

夢いっぱい
友だちいっぱい
笑顔いっぱい

努力が実る年末・年始に ～環境が人を創る～

校長 川島正晴

10月26日(水)に開催された持久走大会では、市内の水泳学習の順番が11月だったことも含めて十分な練習時間が確保されない中、子どもたちは精いっぱいの走りを見せてくれました。たくさんの保護者や地域の方々にお越しいただき、自分の力を振り絞って走る子どもたちの活躍する姿を見ていただきました。厚く御礼を申し上げます。

また、保護者や地域の皆様には、寒くなった朝や夕暮れも早くなった下校時刻など、毎日の登下校の見守り、学校の教育活動への御理解と御支援をいただきまして、心から感謝申し上げます。インフルエンザによる欠席者が急増し、1年生で学年閉鎖、持久走大会の延期とご心配をおかけしました。ご家庭のご理解とご協力に感謝いたします



毎年この時期に、幸手市統一学力調査が実施されます。本校でも、10月から朝の学力タイムをはじめ、宿題も含めて繰り返し学習に取り組んできました。また、12月12日(金)に予定されている文部科学省の事業に関する公開授業研究会が5年生1・2組の児童の授業で公開されます。(1～4年、6年生は13時で下校、5年生は14時35分下校です)。

タブレットを使う授業は当たり前で、文部科学省が目指すは、ICT を利活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現です。本校が3年間取り組んできた内容でもあります。文部科学省の示す「学び」のあり方が、獲得される知識・技能の量から、学びの姿・学びの意味・学びの深さへと、重心が変わってきました。生涯学習への大人社会の移行を見据えた学習指導要領の転換です。本校の取組は、この文部科学省の取組のど真ん中を進んでいます。ただし、大きく右から左に振れるのではなく、静かに従来を上手に引き継ぎながら、新しい課題に向かって学びの質の向上に努めています。だから、タブレットでも、教科書を含む紙の資料でも、学びが一人一人に根差して高まるよう、配慮しています。

一方で、私たち教師の力量の向上も、新たな取組に向けて大きな課題となります。各地の先進的な取組を視察したり、本校の授業に取り入れたりしながら、一人一人の学力の向上を目指しています。12日(金)の授業は、文部科学省の youtube で、全国に生配信されます。

こうした取組の方法に対し、子どもたち一人一人は相性の良い子もいれば、そうでない子もいます。担任とご家庭で十分に情報交換をしながら、一人一人に向いた指導やサポートを進めたいと思っています。疑問や不安を感じたら、すぐに担任にご連絡ください。学校と家庭との協力や連携抜きに、児童の学力向上は望めません。学校では、一人学びを中心として、対話のできる協働を同時進行させた授業で質の高さを求め、家庭学習では一人でできる内容を繰り返して定着を図るように進めてまいります。

学校では、教科等の「学び」と様々な生活と遊びの中で、子どもたちの成長を見届けています。一人一人の笑顔と努力が報われるために、年末・年始もご支援をお願いいたします。

	
<p>11月4日(火) 道徳教育講演会</p>	<p>埼玉医科大学教授の儀賀理暁(ぎか・まさとし)先生をお招きして、命の誕生や生きることの意味など、大切なことを教えていただきました。子どもたちや先生にインタビューしたり、ギターを弾いて歌を歌ったりしながら、心にしみる講演をいただきました。</p>
	
<p>11月5日(水)幸手市小・中学校音楽発表会</p>	<p>今年の幸手小学校代表は、4年1組です。音楽の時間だけでなく、休み時間などにも一人一人が進んで練習に参加して当日となりました。10月29日(水)朝の時間在校内でお披露目会。保護者の方々にもたくさん参観いただきました。当日も応援をありがとうございました。</p>
	
<p>11月5日(水) 5年バケツ稲試食会</p>	<p>5年生が5月12日(月)にバケツに植えた稲の収穫と、お米の学習を兼ねて、収穫したお米の試食会がありました。農協の方、農家の方々にご指導をいただき、おいしい新米をいただきました。</p>
	
<p>11月7日(金) あけたち校外学習</p>	<p>あけぼの・たちばな学級の、秋の校外学習は東武動物公園です。切符を買い、電車に乗って出かける学習です。動物と触れ合い、紅葉できれいに色づく景色を見て、乗り物に乗って、楽しい一日を過ごすことができました。</p>
	
<p>11月17日(月) 5年生校外学習</p>	<p>社会科の学習でスバル太田工場の見学と、伝統産業の学習で羽生の紺屋で染物体験をしました。</p> 